

じんけん くらしの扉

淡路市人教：No. 54

今、思うこと

淡路市人権教育研究協議会

津名支部長 上原 孝

今、世界各地で難民・移民問題に注目が集まっています。アメリカのトランプ大統領はメキシコとの国境に壁を築くことを大統領選挙の時に公約に掲げ、それを実行しようとしています。

先日、岩波新書の『移民国家アメリカの歴史』（貴堂嘉之・著）を読む機会がありました。その中に次のような一文がありました。

日系人として初めてアメリカ連邦議会下院議員となったダニエル・イノウエ（1924～2012年 日系二世のちハワイ州選出の上院議員）が1959年来日し、当時の岸信介首相と面談した際に、イノウエが「いつか日系人が米国大使となる日が来るかもしれません」と水を向けると、岸首相は次のように語った。

「日本には、由緒ある武家の末裔、旧華族や皇族の関係者が多くいる。彼らが今、社会や経済のリーダーシップを担っている。あなたがた日系人は、貧しいことなどを理由に、日本を棄てた「出来損ない」ではないか。そんな人を駐日大使として、受け入れるわけにはいかない。」イノウエにとって、思いがけない屈辱的な言葉であった。

今、わが国には多くの海外からの観光客が訪れ、ラグビーワールドカップ、東京オリンピックや大阪・関西万国博覧会を控え、今後ますます増加が見込まれます。労働力不足問題を背景としてアジアを中心とした国々からの外国人労働者の受け入れも年々増加しています。

昨年末、国会で出入国管理法改正案が成立しました。国会での審議時間も十分ではなく、あまりにも拙速すぎたのではないかと感じています。安倍内閣はもっと時間をかけて国民に説明し、理解を求めるべきではなかったのかと思います。

入管法が改正され、今後さらに受け入れが進みます。受け入れる側が、労働者としてでなく、人として受け入れる意識を持ち、外国人の人権が損なわれないようにしなければなりません。

淡路市じんけん市民講座

①人権課題当事者との出会い・探究コース



淡路市じんけん市民講座①「人権課題当事者との出会い・探究コース」第5回として、1月22日（火）に「ハンセン病と人権」と題して徳島県ハンセン病支援協会の十川勝幸さんを招いてお話をいただきました。十川さんは徳島県庁職員をされている時からハンセン病問題にかかわり、偏見や差別を二度と繰り返さないために活動を続けられています。

参加いただいた方の感想

- ・「その当時の国の政策によって病気になったからといって非情な扱い方を聞くにつれ人間とは何かを考えさせられました。」
- ・「無知は差別を生む、それ故学ぶことは大切である。けれど正しいことを知ったとしても差別の意識を払拭できるかということ簡単にはいかない。難しい。正しい考えを持ち実践できるようにするためには学びを重ねるしかない。」

じんけん福祉講演会

虐待の淵を生き抜いて



2月5日（土）淡路市人権教育研究協議会一宮支部並びに民生委員児童委員協力員合同研修会として「じんけん福祉講演会」を淡路市ふるさとセンターで開催しました。（一財）児童虐待防止機構オレンジCAPO 理事長の島田妙子さんを講師に招き、「虐待の淵を生き抜いて～人にも自分にもあたらない社会をめざして～」と題してお話をいただきました。

子どもの力では抜け出せない虐待。虐待を受けて育ったご自身の体験と虐待をしてしまう親の心理に寄り添い、強い感情に振り回された人の心を本来の心に回復させてあげなければと活動されています。講演の最後には、ムカッとした時に出る怒りホルモンのアドレナリン対応も教えていただきました。